

## 特集

# 問われる子どもの学びの質と「学力」

これまでの教育行政は常に教育は与えるものと考  
えられ、子どもはそれを受け入れる形ですすめられ  
てきた。学習は授業を受け、予習復習をし、宿題を  
するという受け身となり、子どもの主体的・自律的  
な「まなび」は遠のいてきた。

文科省は、14年度から全国学力テストの結果につ  
いて学校毎の公表の可否は自治体に任せ、学校間・  
地域間をいっそう競争を煽り立てようとしている。子  
ども間の競争の激化は子ども同士を心理的に敵対さ  
せて、まさに子どもの学びの質をも劣化させて、21  
世紀の世界的な学習の流れに逆行している。

新潟では10年度から「学力向上推進システム活用  
事業」として国語・算数・理科の問題を月に1回各  
学校にネットで配信し、それを回答させ、その結果  
を県に報告させ、県内のどの位置にあるか、どこを  
強めるべきかなどを示して各校に再び配信している。

現場の教師は、日常の教育活動に加え、県当局か  
ら要請される様々な数値処理でも多忙なのに、この

webテストの準備や集計作業に追われて時間外の  
業務が増え、教えるための教材研究のための時間が  
失われている。

一方、子どもたちはwebテストのための朝学習  
よりもそれまでの自主的な「読書」がよりためになる  
という感想を寄せている(『にいがたの教育情報』112  
号)。

行政は「学力向上」という大義名分を掲げるが、テ  
スト体制下では、子どもたちは勉強嫌いになり、「ま  
なび」からますます逃走しているのではないか。

今求められるのは、自ら主体的に分かろうとする  
意欲を育て、授業に積極的に参加するような「学び  
の質」を向上させることであろう。

新潟方式といわれるwebテストは、学校全体の  
教育の中でどの位置をしめ、こどもの「学びの質」に  
どのように関わっているか、また、「学びの質」は子  
どもの主体的・自律的な学習をどう促しているかを  
追求したい。

編集部